

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874900315		
法人名	社会福祉法人 きらくえん		
事業所名	グループホーム竹原野		
所在地	兵庫県朝来市生野町竹原野222		
自己評価作成日	平成30年11月27日	評価結果市町村受理日	兵31年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成30年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 毎月入居者自治会を開催し、入居者のニーズに合わせた暮らしの実践をしている。 積極的に地域行事に参加したり、なじみの散髪屋に行く等して、社会との交流に配慮している。 毎月学習会を開催し、職員の知識向上や業務の見直し等を行っている。 自立した生活のサポートを行っている。 尊厳を守った認知症ケアの実践に取り組んでいる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設は田園の中に位置し、理念を「ノーマライゼーション」とし、地域と共に生き地域に開かれた福祉・文化・芸術の中心として地域に貢献している。利用者には毎月自治会を開き家族には家族会があり利用者の立場に立った運営が行われている。又利用者のADLの低下を防止するため、音楽療法・生き生き体操・リハビリノ日・認知症予防体操等の支援が行われている。地域の交流も積極的でふれあい喫茶・地域のイルミネーション見学・地域の清掃・盆踊り等交流し又施設より地域の方に認知症に関する講師役として情報発信もして福祉の中心拠点となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・家族や職員の意見を聞き、民主的運営を心掛けている。ノーマライゼーションについては理解・実践している。 詳細や方針をしっかりと理解できているかと問われれば、不安が残るという意見もあった。	法人理念ノーマライゼーションの基づいて民主的運営の下、理念を理解し、共有して家庭的な雰囲気の中で穏やかに、生き生きと暮らせる環境作りに取り組んでいる。北の家の玄関にも理念の掲示が望まれます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事・イベントには積極的に参加している。盆踊りやもちつき大会等、地域の方々も参加して頂く行事を企画している。買い物や散髪等、地域の店を利用している。 日常的に交流が図れているわけではない。	地域との交流を深めることを目標に掲げ、地域行事やふれあい喫茶等へ積極的に出掛けている。事業所でのイベント(餅つき等)に地域の方々に協力・参加して頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	“介護者の集い”の開催メンバーとして地域住民に、認知症の理解や支援方法等について伝えている。生野高校の福祉講座に出向き、認知症についての講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の区長2名、家族会会長、地域包括支援センター職員2名が参加し、2か月に1回の会議の中で状況報告・意見交換を行っている。会議の中で出た意見でサービス向上に繋がるものがあれば、積極的に取り入れている。	2地域(竹原野・緑が丘)の区長・副区長、家族会会長、地域包括支援センター(朝来・生野)の職員の参加の下、2ヶ月毎に1回開催され、状況報告・意見交換を行い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月稼働率や運営状況を報告している。また、運営推進会議に参加している市職員を通して取り組みを伝えている。	毎月、市の高年福祉課に稼働率や運営状況を報告している。運営推進会議に地域包括支援センター職員2名の参加があり取り組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会や研修会等で知識を得るようにし、身体拘束を行わないケアについては理解があるが、夜間の単独外出に関してはリスクが大きい為21時～翌朝7時までと時間帯を決めて施錠をする対応を統一している。GPSの活用や、転倒リスクの高い方へのセンサー利用等でリスクの軽減を図っている。	学習会や研修会等で身体拘束をしないケアについて学んでいる。夜間の単独外出に対して時間を決めて施錠している。単独外出の方へのGPS活用や転倒リスクの高い方へのセンサー利用は家族と相談の上で使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修で理解を深め、定例会議内での情報共有を行いながら虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。	定例会議内で情報共有を行いながら、虐待が見過ごされることが無いよう注意を払っている。ストレスを溜めないように、職員の一人ひとりの就業状態に留意している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、家族と疎遠な方もある為、今後学習会等で学ぶ必要がある。	現在、制度を利用されている方はおられない。今後、制度を活用して支援できるように学習会を予定している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明し、その都度家族からの質問にも答えている。	重要事項説明書、契約書を基に説明している。ターミナルについても「ターミナル確認書」の基づいて説明している。改定等の際には家族会総会で説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者主体の自治会を開催し、定期的に家族会総会も開催しており、意見を言える場を設けている。また、その意見を反映出来るよう努めている。	毎月利用者主体の自治会(入居者自治会)を開催し、要望や意見を聞いて生活に反映できるようにしている。家族会も定期的開催され話し合いがなされている。そこでの意見や要望を運営に反映するように努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回定例会議で職員の意見を聞くようにし、それらを反映させるよう努めている。人事考課の際に評価表で意見を提出してもらっている。オープンな雰囲気ではあるが、公式に意見を聞く場があるわけではない。	毎月1回の定例会議では業務改善・利用者対応・環境等について話し合いがなされ、そこでの意見を運営に反映するようにしている。人事考課の際には各自の目標計画を立ててもらい、その達成度について話し合いがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業界全体の問題であるが、まだ給与水準は低いと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年目は研修が多かったが、2年目以降は施設外の研修がほとんどない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市内GH連絡会を開催しており、連絡会を通じて行事・研修はあるが、他施設の職員との交流が多いとは言えない状態である。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い情報収集を丁寧に行う事で、ご本人が安心できるような関係作りにも努めている。フェイスシートで情報共有をし、統一したケアを提供出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面接でご家族の要望を伺い、不安が軽減できるよう努めている。ご家族様来苑時に近況を報告し、さらに要望等が無いかも伺うようにしている。新規入居者の意見や要望は初日に伺い、ケース記録に残している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や担当ケアマネージャー等と情報交換をし、必要な支援を提供できるよう努めている。その方にとっての適切なサービス		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者として、掃除や調理等を共に行うようにし、自立支援に努めている。 「暮らしを共にする」とう表現が意味するところは明確ではなが、方向性としては出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族訪問時に近況報告、状態変化があった際の報告等をこまめに行うようにしている。毎月GHだよりを送付するようにし、ご家族様との関わりを密にとりながら、絆を大切にしている。職員と家族の役割分担に悩む事もある。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知り合いの方など、いつでも自由に訪問して頂いている。入居時には馴染みのお店等も伺い、入居後も利用して頂けるよう支援している。在宅時に習慣としておられた行事等への参加も継続できるよう、関係者と連絡を取りながら対応しているが、もっとすべきであると感じている。	家族や友人・知人の来訪がある。来訪時の家族の楽しみの為に今年から個人のフォトアルバムを作っている。入居前の活動や習慣にしていたこと(趣味や宗教等)を大切にし、継続できるように支援している。馴染みの散髪屋やお店に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、孤立せず、良好な関係を保てるよう座席配置等に気を付けている。時折入居者間のトラブルが発生する事もある。ユニットに男性入居者が1名しかおられない為、多少居づらさを感じておられるように思う。レクリエーションなどを行い、居室にこもらないよう計画を立てている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入居された方には訪問に行く事もある。必要に応じ、ご家族からの問い合わせ等に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族からの情報をもとに介護計画を作成している。毎月の自治会で希望や困りごと等を伺い、希望に沿えるよう支援している。必要に応じてカンファレンスを行っている。食事の味付けなども、細目に確認するようにしている。	担当職員を中心に思いや意向の把握に努めている。毎月の入居者自治会でも希望や意見を聞いているが、自治会運営方法や内容も工夫が必要と感じており今後、充実した会を目指し検討を重ねていく予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にしっかりと情報収集を行い、フェイスシートや介護計画書で全職員が把握できるようにしている。出来る限りこれまでの暮らしが継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時はフェイスシート、その後は日々の記録や申し送り等で全職員がそれぞれの現状や変化を把握できるようにしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に合わせた介護計画を作成している。入退院時や状態変化等あればカンファレンスを行い、意見等を聞いて介護計画の見直しに反映させている。	モニタリングは1ヶ月に1回行なっている。状態変化があった場合はカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を入力し、職員間での情報共有をしている。居室担当が毎月評価をしているが、実践や介護計画の細かな見直しまでは、あまり活かせていない現状にある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊等、出来る範囲で希望に沿えるよう対応している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店や行事に出掛け、生活が活性化するよう努めているが、充分には出来ていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し、希望に沿った医療機関を利用するようにしている。毎月の往診時だけでなく、健康管理を行う上で不安な点があればすぐにかかりつけ医に相談している。体調変化などあれば、早めに看護職に相談している。	入居前にかかりつけ医を確認し、希望に沿った医療機関を利用して頂いている。2ヶ所の内科医の往診が1ヶ月に1回ずつある。健康管理で不安な点がある場合はすぐにかかりつけ医に相談できる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化等あれば随時看護師に報告・相談するようにし、迅速な対応が来ている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に情報提供を行い、退院に向けての面接も積極的に行っている。	入院時には病院に情報提供を行っている。退院時にはカンファレンスに参加して早期退院に向け支援をしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族とも話し合い、その方に合った生活・環境で過ごして頂けるようにしている。こちらで対応出来る事を説明し、本人や家族の希望に沿えるようにしている。	入居時に「ターミナル確認書」にて、重度化した場合の対応について確認して、同意書に署名を頂いている。重度化した場合は本人・家族の希望に沿えるよう支援している。今後、緊急時の対応については家族会で話し合っていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルの作成、救急時・応急手当等の研修や学習会を開催し、知識を増やす努力をしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て、2ヶ月に1回は防災訓練を行っている。夜間を想定した訓練は、まだ1度しかしていない。地域との協力体制については、まだ充分とは言えない。	昼間を想定した水害・火事等の防災訓練を行っている。水害訓練後、事業所独自のマニュアルを作成した。夜間を想定しての火災・水害訓練はこれからである。避難経路も新たに導入されたが、改良、検討すべき箇所を検討していくこととしている。地域と連携した訓練はまだ出来ていない。	災害に対する最低限の訓練・設備等は整っているが夜間の避難経路の照明や通路の段差問題と水害を想定した夜間の避難訓練が未だ一度しかされていない。特に施設の脇に川が有り水量が一杯になったとのことで早急に対応する事が望まれる。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の定例会議の中で、言葉遣いや対応方法の見直しをするようにしている。	運営方針「人権を守る」「プライバシーを大切にす	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	依頼形の言葉遣いにより自己決定が引き出せるように働きかけている。利用者の意見をしっかりと聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今の職員体制の中で、出来る限り、起床時間や外出等、なるべく希望に沿えるよう対応しようと努めている。利用者主体の支援を行うようにしている。1人1人のペースに合わせ、職員の都合を優先しないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んで頂いたり、化粧やお洒落(毛染め・マニキュア等)をして頂けるよう対応している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で、一緒に洗い物や食事の支度を手伝って頂いている。	できる範囲で、食事の作業(盛り付け・洗い物等)に参加して頂いている。副食は特養厨房から運ばれごはん汁物は各ユニットで作っている。手作りおやつの日と一緒に色々な物(おはぎ等)作って楽しんでいる。今年度は味噌作りにも挑戦した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接した特養の栄養士が作成した献立により、栄養管理を行っている。毎日食事・水分摂取量のチェックを行い、個々の状態に合わせて摂取しやすい形状で提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時には口腔ケアを実施しているが、昼食後には出来ていない。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めし、担当者がアイテム表を更新・提示している。排泄チェック表を活用しながら情報を共有し、なるべくトイレでの排泄が出来るよう支援している。	チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握して、なるべくトイレでの排泄が出来るように支援している。介護福祉用具業者の協力の下、排泄関連の学習会を行った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用しながら、必要に応じて個々に合ったタイミングで薬での調整を行っている。ラジオ体操や散歩など、運動への働きかけもしている。牛乳をこまめにお出している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	チェック表を用いて、曜日は決めずに週2回以上は入浴して頂けるよう、また、随時希望に沿えるよう対応している。希望があれば、同性介助で対応するようにしている。時間が限られている為希望通りにはいかない事もある。	曜日は決めずに週2回以上は入浴して頂いている。今年からリフトが設置されシャワー浴だけだった方も檜木のお風呂に入れるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活にメリハリが出るよう、日中にしっかりと活動して頂くよう対応している。日中休みたい方があれば、その都度休んで頂けるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬内容を個人ファイルに挟み、確認出来るようにしているが、詳細・副作用等は理解しきれていない。職員間で利用者の状況を共有するようにし、状態変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かした役割や出来る事に応じて、家事や趣味活動等を提供するようにしている。麻雀がお好きな方は、ミニデイに参加される事もある。また、天気の良い日に、希望者があれば散歩に行っておくよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、出来る限り外出支援を行い、行きつけのお店に行くようにしている。本人の好きなタイミングで外出して頂くのは、職員体制上無理な事もある。	希望に沿って、地域のスーパーやホームセンターへ買い物に出掛けている。地域の行事になるべくたくさん参加することで外出機会を増やすようにしている。年1回、日帰り旅行(今年度は姫路)に家族と共に出掛けている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上個人でお金を管理して頂いている方もおり、買い物の際に使用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもグループホーム内の電話を使用して頂いている。自身で携帯を持っておられる方もいる。手紙のやり取りはあまりない。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、快適に過ごして頂けるよう配慮している。共用スペースには季節に応じた花等飾るよう努めているが、もっと季節感を出したい。まだまだ季節感を演出する工夫が足りない。	居間や廊下、休息スペースからは中庭や外の自然が眺められる。共用スペースには季節に応じた花を飾るようにしている。今年度、風呂(リフト)、電気(LED)、トイレ(手すり)、椅子、壁のリフォームが行われた。各所に設けられている休息スペース(ベンチ・炬燵等)が有効に使われていないのが残念である。	開設当初は生活リハビリを目的に設計された土間やくつろいで頂こうと設置された炬燵スペースが利用されていない。職員間でアイデアを出し合い、有効に使っていただけるように工夫・改良されること期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い方同士の席を作ったり、お好きな場所で落ち着いて過ごして頂けるよう支援している。昨年の方が出来ていたと感じている職員もいる。セミプライベート空間にはテーブルセットを置き、小上がりにはコタツも設置しているが、あまり活用されていない。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力も得ながら、自宅で使用されていた家具や馴染みの物を持ちこんで頂き、少しでも自宅に近い環境作りを行っている。仏壇や神棚を持ちこまれている方もある。	各居室にはトイレと洗面所が設置されている。家族の協力の下、馴染みの物をもってきて頂いて、居心地よい居室を作り上げている。今年度、各居室のトイレにトイレ用すりを設置した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が住みやすい空間作りを目指し、日々環境整備を行っている。		

基本情報

事業所番号	28744900315
法人名	社会福祉法人きらくえん
事業所名	グループホーム竹原野
所在地	兵庫県朝来市生野竹原野222 (電話) 079-679-3936

【情報提供票より】(H30年11月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤 10人 非常勤 5人 常勤換算	人

(2)建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費	水光熱費 35,000円/月
敷金	無	共益費 5,000円/月	預かり金管理費 2,000円/月
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり () 円		

(4)利用者の概要(平成30年11月16日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	9 名	要介護2	6 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.5 歳	最低 70 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	朝来医療センター 神崎総合病院 上田歯科
---------	----------------------

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52	開設当初は生活リハビリを目的に設計された土間やくつろいでいただくと設置されたこたつスペースが利用されていない	土間のいろりスペースを集いの場所として活用する	雑祭りや、端午の節句等の飾りを行い、入居者、家族、地域の交流の場所として提供する。	2ヶ月
2	52	開設当初は生活リハビリを目的に設計された土間やくつろいでいただくと設置されたこたつスペースが利用されていない	小上がりのこたつスペースを交流・作業・学習の場所として活用する	お茶を飲む(10時/毎日) 洗濯物をたたむ(10時/毎日) 脳トレや塗り絵をする(3時/行事のない日)	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()